



Toho 東邦キャンパス Campus

vol.136

2022年(令和4年)7月 発行

発行 学校法人 東邦学園 〒465-8515名古屋市中東区平和が丘三丁目11番地 TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

HP [東邦学園](#) [愛知東邦大学](#) [東邦高等学校](#) [検索](#)

特集

大学硬式野球部が
創部22年目で1部昇格
学園100周年 新時代へ
高校美術科に「創作棟」

小さな大学が輝く偉業

愛知東邦大学硬式野球部が2022年春季入替戦で1部の東海学園大に連勝し、愛知大学野球リーグ1部昇格を決めました。

目次



開設30周年を迎える美術科

学園100周年の2023年、高校美術科は開設30周年を迎え、実技専用新校舎「創作棟」が誕生します。

特集 1

学園100周年 新時代へ

「精于勤」(つとむるに)を かみしめたい

理事長 榊 直樹

学園創立100周年を来年に控えて、創設者たちはどのような心構えを求めていたのか——。学園に遺る貴重な「書跡」を紹介し、振り返ろうと思います。

その書跡の筆遣いはあまりに力強く、ながめるたびに猛然たる激励を受けたかのような感覚が湧いて、思わず奮い立ちます。90年前の1932(昭和7)年、国を揺るがせた「五・一五事件」で暗殺された犬養毅首相が、「東邦商業」へ贈って下さったものです(贈呈時期は不明)。

書跡には「精于勤」と記されています。中唐の詩人・韓愈(かんゆ)の作品「進学解」に「業精于勤荒于嬉」という一節があり、ここからの引用と思われます。「業(なりわい)は勤むるに精(くわ)しく、嬉(たの)しむに荒(すさ)む。」と読み、「学業(事業)は勤めれば勤めるほど精通するが、反対に遊びにふけていればいるほど、すさんでだめになる」と説いているそうです(ネット上の解説)。

いかがですか。校訓「真面目」との一体性を感じませんか。校訓を定めた創立者・下出民義先生は創設時に「人格は鍛錬と陶冶によりてのみ光を増す」と述べています。書には「東邦商業」「犬養毅」の名が書かれ、「木堂」の雅号印が押されているので、揮毫の時期は東邦商業創立の1923年から暗殺された1932年5月15日までの間、下出先生が帝国議会議員でしたから、政界におけるご縁で本校宛に書いて頂けたのでしょう。

犬養氏の人柄を偲ばせる有名なエピソードがあります。首相公邸に青年将校が乱入した際、護衛が逃げるよう促すと、「逃げない、会おう」(将校が)撃つのはいつでも撃てる。あっちへ行って話を聞こう」と答えたとのことです。その後将校から「問答無用、撃て」と銃弾を浴びるのですが、理不尽な暴力にも言論で気丈に立ち向かおうとする姿を知れば、書家としても一流だった犬養氏の、「精于勤」に込めた思いに一層の迫力を感じます。

実は、日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一氏もこの部分を書に遺し、東京商工会議所や千葉銀行本店に掲げられています。でも、ほとぼしり出るような勢いは、本学園の書跡が圧倒的です。1世紀を経てなお、いささかなりとも朽ちないメッセージです。



美術科に「創作棟」

30周年で新拠点 2023年4月オープン



「制作に集中できる最高の創作環境」「地域に根差した東邦の新たなシンボル」をめざす創作棟完成予想図

東邦学園100周年、開設から30周年を迎える東邦高校美術科に2023年4月、実技専用の新校舎「創作棟」が誕生します。8月着工で来年3月中旬完成を目指す創作棟は鉄筋2階建てで、愛知東邦大学前東側の駐車場(1100㎡)に建設されます。油絵、日本画、デザイン、彫刻、デッサンの創作活動の拠点となります。さらに入口付近をガラス張りにして、地域の人たちに作品を見もらうなど「開かれた美術科」を目指します。

格段に充実する創作環境

東邦高校では学園創立70周年を迎えた1993年、美術科が開設されました。1991年に設置された普通科美術デザインコースが独立したもので、愛知県内で美術科のある高校は県立旭丘高校のみで、東邦高校の美術科誕生は大きな注目を集めました。1クラス募集ですが、2021年度までに1131人の卒業生を送り出しました。

美術科は旧校舎の普通教室を改造してアトリエにしての出発でしたが、1994年には彫刻棟(7号棟)が完成し、1995年には油絵、日本画、彫塑、デザインの4コー

スでの教育環境が整いました。2007年の現校舎完成に伴い、美術科は特別棟4階フロアに置かれました。しかし、アトリエが東西に面しているため、朝は強烈な光が入り込み夕方は西日が強いなど制作活動の環境としては難がありました。

総工費約5億円をかけ、美術科初の専用棟となる創作棟は1階340㎡、2階530㎡。現在の美術科フロアは制作室706㎡、教員用準備室66㎡ですから、床面積はこれまでよりやや広い程度ですが、天井が高く北窓から安定した採光が可能になり、創作環境は格段に充実します。

1階軒下も制作空間となり、教員控室、バリアフリー対応、教材や作品運搬用のエレベーター、可動壁、収納棚のほか、外部から鑑賞できる作品展示ウインドウも設けられます。

美術科の創作棟への引っ越しに伴い、特別棟4階は全面改修され、国際探究コースの専用フロアと普通教室が新設され、探究学習やプレゼンテーション等に幅広く活用されます。

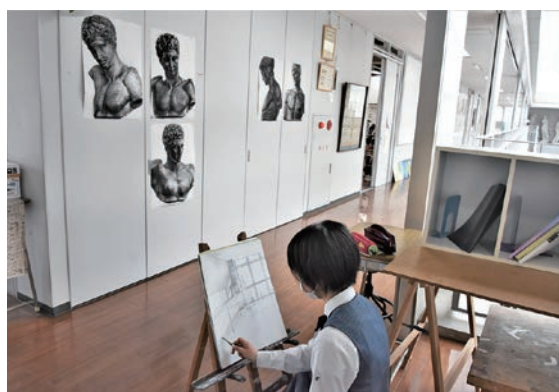
創作棟に託した3つの方向性

～小塚康成・美術科主任教諭に聞く～

美術科の新たな創作拠点である「創作棟」の概要や特色、期待などの思いを美術科の小塚康成主任教諭(デザイン)にお聞きしました。



——美術科が誕生したのは1993年の旧校舎時代。現在の校舎が出来たのは2007年ですが、旧校舎時代の美術科はどんな感じだったのでしょうか。



私が美術科教員として赴任したのは2000年で、旧校舎時代です。普通教室を改造してアトリエにしていました。天井が低く、各専攻の創作活動に必要な水の設備がなく、全てにおいて不十分でした。

——2007年の新校舎(現校舎)完成で待望の施設が整ったわけですね。

新校舎の完成で、天井の低さの問題、教室が4階と5階に分かれていて不便だった動線の課題も改善されました。旧校舎では5階がデザインと日本画、4階が油絵。美術科職員室も5階と4階に分かれており、上と下を行き来していましたが、新校舎になってからは4階にアトリエが集まり、一体感が持てるようになりました。特徴的なのは、美術科のアトリエには天井の板がなく、配管などがむき出しになっています。天井を少しでも高くするための工夫です。

——新たに「創作棟」を造るにあたっては、「ぜひこういうものを」という先生方の希望は盛り込まれたのですか。

「創作棟」の話が持ち上がった時には、夢のような話に信じられない思いでした。来年度完成ということで、すぐさま教員でどんなものにするかを話し合いました。いろいろな意見と要望が出ましたが、3つの方向性で話がまとまりました。

同じ棟で刺激し合いながら創作活動

4専攻のうち、現校舎では、彫刻が離れて1階にあり、日本画、油絵、デザインが4階にあります。彫刻は粘土や木材、金属など重いものを使うので、都合上どうしても階が離れてしまうことがありました。しかし、今度の創作棟は4専攻すべてが一つの建物で制作活動が行えます。2階建てで、1階は彫刻と油絵、2階に日本画とデザインという配置になります。いろいろな専攻の生徒たちが、互いの作品を見合うことができ、刺激し合える環境になります。専攻を越えた新しい創造の場が実現できるという点で、現代における理想的な美術教育が実現できると考えています。

可動壁でスペースを変えられる

今までですと、油絵は油絵、日本画は日本画と教室で仕切られた中で、それぞれ授業を進めてきました。中でも問題であったのが、2年次から3年次にかけての専攻人数の問題です。専攻選択は生徒の希望を第一に考えていくものですから、年度によってその人数が流動的に変わります。今までの教室の仕切りですと、専攻人数が増えた教室が密集状態になったり、少ない人数ですと余裕ができるということが起こりました。それが今度の創作棟は可動壁、つまり壁が動く作りとなります。壁が動くことによって、無駄のない使いや



すい空間へと調整が可能になります。

——創作環境は大幅に改善されますね。

その通りです。例えば、現校舎の特別棟は東西に面しているため、朝は強烈な光が入り込み、夕方は西日が強いなど制作活動の環境としては難がありました。特にデッサンなどの授業では採光の問題は大きく、光の向きによって影の位置が変わる現校舎は課題となっていました。創作棟ではそれが改善され、理想である北側からの採光が実現します。内側がアール(曲面)となった採光窓からは常に安定した柔らかい光が降り注ぎ、1日を通して理想的な環境で実技に集中できるようになります。

さらに、今回の創作棟では廊下がありません。廊下を撤廃することで内部全体が制作空間となっています。可動壁によって、周りは通路兼アトリエになり、お互いの作品を見ることができます。隣の講評の声が聞こえることもあります、それも勉強になると思います(笑)。

一般科目授業は現校舎で

——生徒たちの授業は全て創作棟で行われるのですか。

現在1階にある彫刻室は残り、彫刻の授業は現在の場所と創作棟の両方で行われます。創作棟で彫刻の授業を完全にするにはスペース的に十分であるとは言えません。現校舎には粘土槽や流しなど、彫刻専用の設備も残っていますので、引き続き活用していく考えです。また、校舎1階入口の絵画作品や特別棟2階のギャラリースペースなど一部の機能はそのまま残す考えです。

創作棟の建設に合わせ、現校舎の各階廊下やラウンジにはピクチャーレールも取り付けられる予定です。このように美術科の機能が全て創作棟に移動するのではなく、現校舎との繋がりも大切にしつつ、外部からは芸術を重んじる校風が感じられるようにしていきたい

いと考えています。

美術科教員の準備室は創作棟に移り、教員は普通科で美術の授業がある時は現校舎に移動します。美術科生徒たちのホームルーム教室は現在の建物に残り、そこで国語や英語など一般科目の授業を受けます。昼食もホームルーム教室でとります。創作棟での授業は実技の時だけです。移動時間のロスをなくするため、時間割を工夫して一般科目と専門科目を午前、午後に集中させることになります。全学年が同時に創作棟で実技をするのは不可能ですので、学年ごとに入れ替わって使用することになります。例えば3年生は午前に創作棟で実技、午後からは現校舎で座学での授業を受けるというようなイメージです。このようなことから美術科の時間割については工夫していく必要があると考えています。

地域に開かれ、愛される美術科に

創作棟は展示の機能も備えています。1階の道路に面した入口付近をガラス張りにして、生徒が描いた作品や、卒業制作の優秀作品を、道行く人たち、地域の人たちに見てもらえるようなギャラリーにしています。もちろん棟内は、美術館のような展示空間にもなることから、様々な企画をもとに展覧会を催すことも可能です。

創作棟はファサード(正面から見た外観)も美術にふさわしいモダンな建築になる予定です。それゆえ地域のアイコンとして文化的な発信の場になっていくチャンスではないかと考えています。例えばあるときは、カルチャーセンターのような絵画教室の場に、またある時は、近隣の幼稚園児、小学生に向けたワークショップなども考えられます。

いずれにしても創作棟が高校だけのものでなく、長きにわたって地域に愛され親しまれる存在になってほしいと考えています。



移動仕切壁などでフレキシブルに利用できる2階アトリエイメージ

美術科30年の歩み

- 1991年 普通科に「美術デザインコース」設置
- 1993年 「美術科」開設。(2クラスでスタート。次年度から1クラス募集に変更)
第1回卒業制作展「未来の芸術家たち展」開催(伏見・電気文化会館)
- 1994年 旧校舎に平屋建て彫刻棟(7号棟)完成
中学校美術科教諭向けに授業公開
フィジーへ「ゴーギャン・ツアー」を実施
- 1995年 美術科1期生が第3回「未来の芸術家たち展」開催(伏見・電気文化会館)
- 1996年 第4回「未来の芸術家たち展」開催(愛知県美術館)
- 1997年 三重県大王町で恒例の制作合宿
- 1998年 中学教員向け公開授業に39人参加
- 1999年 教員らが展覧会「十一の視点」開催
- 2001年 第9回「未来の芸術家たち展」に商業科グラフィックデザインコースも参加
- 2003年 美術科生徒ラッピングの「TOHOバス」登場
- 2004年 美術科8期生岩村久美子さんが「別冊マーガレット」(集英社)で漫画家デビュー
- 2007年 新校舎が竣工し特別棟4階に日本画室、油画室、デザイン3室、素描室、1階に彫刻室、3階にマッキントッシュ室等
美術科2年生26人が東京の美大見学(女子美術、多摩美術、武蔵野美術、東京藝術)
- 2009年 美術科3年鬼頭昌平君制作の学園案内壁面照明看板が地下鉄名古屋、栄駅ホームに登場
- 2011年 3年連続で東京藝大に現役合格
- 2012年 試行としてパリ研修旅行を実施
- 2013年 美術科20周年記念誌を発行
- 2014年 初のパリ修学旅行
- 2015年 全国美術高等学校協議会本部事務局に就任
- 2016年 東京藝大進学者の指導で「芸大ゼミ」始まる
3年生の辻田大誠さんが集英社の「JUMPトレジャー新人漫画賞」に準入選
テロ事件配慮でフランス修学旅行を沖縄・八重山諸島に変更
- 2017年 美術科41人がイタリアへ修学旅行
- 2018年 ドイツ美術大教授によるワークショップ授業
第2回美術科イタリア修学旅行
- 2019年 第3回美術科イタリア修学旅行(2020年、2021年はコロナ禍で中止)
- 2021年 第29回「未来の芸術家たち展」を開催
- 2022年 卒業生らが名古屋市中区のギャラリー「彩」で「未来の芸術家展～その後」開催

(「東邦キャンパス」掲載記事を中心に作成)

隔世の感で振り返る美術科30周年

東邦学園監事 長沼 均俊

私が愛知県の公立中学校教員を経て東邦高校教員になったのは普通科に美術コースが新設された1991年。今ある美術科の発展をみると隔世の感を覚えます。開設時の校舎(旧校舎)は笑い話のようです。自然光の下で素描ができない教室環境のため、少しでも安定した光を得ようとカーテンを閉め切り人工光によるライティングに腐心しました。廊下に水道の流しを急きょ作ってもらいましたが、それでも足りなくて、授業によってはトイレの手洗い場を使ったりしたほどです。そのような経験もあって、2007年の新校舎(現校舎)建築の際には、アトリエの考え方をめぐり理事会とは相当やりあいました。

美術科に入学して来る生徒たちはほとんどが芸大・美大進学希望で、専門領域でさらに挑戦したいという子たちが圧倒的に多く、私たち教員は彼らの夢を叶える指導に集中していました。特に、日本画・油絵・彫刻・デザインの各専攻のカリキュラムや指導のあり方をめぐっては、専攻の枠を越え活発に議論を重ねました。そのかいもあって1期生から東京藝大・愛知県立芸大をはじめとして、地元や関東・関西の美大へ送り込むことができました。

しかし、美術科の目的を「人間理解を深め美術デザイン活動を通じて社会貢献できる人材の育成」とするならば、進学実績だけでなく長期的視点から卒業生の活動(活躍)に焦点を当てることで改めて東邦美術科の30年の歩みを考えてみる契機にすべきだと思います。東邦美術科のここまでの30年、まさに多彩な人材が育ち、各分野で活躍していることを心から嬉しく思います。

長沼 均俊(ながぬま まさとし)

北海道出身。愛知県立芸術大学美術学部美術科油絵専攻卒、同大学院修士課程修了。愛知県の公立中学校教員を経て1991年から東邦高校教員。教務部長、教頭を経て2011年4月から2015年3月まで校長。東邦学園常務理事を経て現職。



特別棟 4階に国際探究スペース

高校 国際交流室長 伊藤 保憲

普通科国際探究コースは2020年4月に新設されたコースです。国際探究コースはSDGs(持続可能な開発目標)を学びの軸として、日々変動する地球の様々な問題とその本質を知り、解決策を探ることを目標としています。

1年生では世界遺産について学習します。この授業の目的は、世界遺産一つひとつの歴史や価値について学ぶことにとどまりません。世界にある1000を超える世界遺産の中には、地球規模の課題に直面しているものもあります。温暖化の影響を受ける自然遺産や、戦争に巻き込まれて、維持そのものが危ぶまれるものなど、世界遺産を通して今、世界では何が起きているのかを知ります。

2年次には、「捕鯨」をテーマにした模擬国連の授業を行っています。各国の立場に立って、多くの人とのコミュニケーションを通してこの問題を見つめることで、考えを深めたり、自分の意見をまとめる取り組みを行っています。



フィリピンから名古屋に留学中の大学生の話聞く国際探究コースの生徒たち(他コース生も含む。6月15日)

また、SDGs17の目標に真正面から向き合い、1年生はグループで、2年生は個人で研究テーマを設定し、総合学習などの時間を利用した調査研究を行っています。性の多様性、海の環境保全、フードロス、外国人労働者問題、差別、街づくりなど、生徒の関心は多岐にわたっています。本やインターネット上の情報を読んで調べたりするだけでなく、秋には自分の研究テーマに最も近い企業や団体さんに自分でアポを取り、学校の外に出たフィールドワークも行っています。調べ学習の中で出てきた疑問を解消したり、新たな情報を得たりするなど、非常に貴重な学びの機会となっています。

さて、国際探究コースは、今年度3期生を迎え、ようやく完成年度を迎えました。国際探究で学ぶ生徒たちは、好奇心にあふれ、身の回りのことへの関心が高い生徒たちです。その意識の高さに日々、私たち指導者も啓発されているところです。この3年間の経験を活かし、今後、探究活動や語学教育のさらなる拡充のため、2024年を目標に普通科のコースから国際探究科(仮称)へと昇格を予定しています。その前年には、高校特別棟の一部を改修し、国際探究スペースの開設を予定しています。広くゆったりとした空間には、書籍やコンピューターを充実させ、プレゼンテーションを作ったりその練習をしたり、また研究発表会の会場にも利用できるようにしていきます。そして、いくつかの小規模な空間も作り、自由にディスカッションができる雰囲気を作っていきたいと思っています。

WE ARE TOHO

はばたき 新時代へ — 東邦学園100周年

これが新たにデザイン開発された100周年記念メッセージデザイン。これから様々な場所で活用します。

公式活動特別支援、始動 ～本格化する100周年記念事業～

理事 佐々木 泰裕

100周年記念事業は、今号で採り上げた美術科創作棟や、現在検討中の学園総合キャンパス構想といった諸環境整備の他にも、多岐にわたる取り組みが予定されています。事業コンセプト「はばたき 新時代へ」のもと、“The TOHO EXPO(The・東邦博覧会)”と大きく構想し、スポーツ・文化・学術トータルで存在感を示し、社会を元気にすべく、本格的な準備を開始しました。その方向は、大きく4つです。

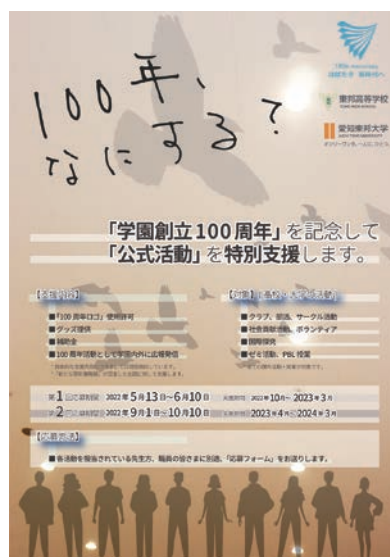
一つ目は、広く話題性を高め、「東邦学園の思想を伝え広める」企画です。2023年度に予定している記念式典や、記念誌の発行の他、創設された下出民義先生の功績をあらためて世に広めるなど、様々なイベントを検討中です。

二つ目は、やはり広く話題性を高め、「東邦学園のプレゼンスを高められる」企画です。「東邦といえば野球」「東邦といえばマーチングバンド」などといった、東邦ブランドの大きな構成要素を活用して盛り上げ、東邦学園への共感・好感を訴求できるものを準備しています。

三つ目は、「情報を発信・共有する」企画です。ソーシャルメディアを活用し、これまで以上に情報を効果的に発信できる仕組みを作れないか、検討中です。

そして四つ目が、「生徒、学生の主体性を高め、誇りや愛校心をはぐくむ」という企画です。この方向で検討してきたものの一つが、この5月にスタートしました。それが、「100周年公式活動特別支援」です。

対象は、高校・大学での、教職員が関わる全ての授業や課外活動です。部活動やサークル活動でも、ボランティアなどの社会貢献・地域貢献・国際探究でも、そしてもちろんPBL(問題解決型学習)やゼミでの活動など、授業も対象です。



生徒・学生の活躍を促し、さらなる成長の背中を押すような、100周年を記念してこんなことをやってみたい、やらせたい、というアイデアを支援するものです。

支援の仕方は、100周年活動としての学園内外への広報発信の他、グッズ提供その他補助金、100周年ロゴの使用許可といったことを想定しています。

今年度実施の活動が対象となる第一弾は6月10日締め切りですが、5月24日現在、すでに10件近い応募が教職員から来ています。

今号が発行される頃にはすでに選考結果が出ていることでしょうが、頂いているアイデアは、「毎年恒例のことを100周年で盛大に」というものから、まったく新しい企画まで実に様々で、選考が今から楽しみです。なお、2023年度実施分を対象とする第二弾は今年の9月1日から10月10日に募集します。

皆様から頂いている100周年事業のご寄付は、このような活動にも使われます。若者の志を学園が支援しつつ、学園自らも新時代へはばたかんと、様々な取り組みを今後も実施してまいります。

引き続きの更なるご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

スポーツ・文化振興局から

今回は、我々の活動の中から、地域スポーツクラブでの「わくわくスポーツ教室」に焦点を当ててご紹介します。

この教室は、地域の皆様向けに、愛知東邦大学の施設を利用し、人間健康学部助教の中野匡隆先生にご協力を頂く他、専門の講師もお呼びして開催しています。

2022年度は、「座ったまま運動」、「お気楽太極拳体操」、「お気楽ヨガ」の3つの教室を開いています。1回500円というリーズナブルな参加費で、地域の皆様がお気軽に参加いただけるようにしています。

講師の方々や参加者の方から、生の声を頂きました。

座ったまま運動講師：中野 匡隆

(人間健康学部助教 健康運動指導士)

普段あまり運動をしていない方、とくにコロナ自粛で運動不足を感じ、これから新たに運動習慣を！という方で、いきなり筋トレは自信がないという方を対象としたシニア向けの「椅子に座ったままの簡単なトレーニング教室」を開催しています。



簡単なものなので自宅でもできる内容ですが、なかなか自宅だけで取り組むことは難しいようです。また週1回のトレーニングでは大きな筋力増強の効果は期待できないかもしれません。しかし、これをきっかけに、上級者向け教室への参加や普段の生活習慣の見直し、そのための講座への参加など、名東区のヘルスプロモーションへの寄与ができればと考えています。

参加者の中には、この教室に来て、愛知東邦大学の図書館で本を借りて帰るという習慣をもたれた方もいるようです。単に身体的な健康づくりだけでなく、愛知東邦大学が社交の場、知(地)の拠点として機能することで、地域の「いきがい」となる「カヨイバ(通い場)」になるように、通いたくなるような教室運営を目指しています。

太極拳講師：樊 孟

博士(体育学) 中国武術国家1級武士

コロナ禍のまん延防止対策などで旅行や会食等に行動制限がされる中、少しでも皆さんの運動不足解消やストレス解消に繋がればと始まった「お気楽太極拳体操教室」。

太極拳は古来より培われた〈意識・動作・呼吸〉の3つを結びつけた中国の伝統武術であり、現在では健康法としても有名です。集中力を高め、気血の流れをよくし、ゆっくりとした動作は足腰を鍛える効果がある



と言われ、世界中に多くの愛好者がいます。

この講座では、初心者にも楽しんで続けてもらえるように、わかりやすい説明と、一方的な講座となら

ないよう受講者との交流を心がけながら教室を進めています。

実際、受講者の皆さんは、毎回元気に出席してくださり、受講者同士も仲良く楽しみながら、気持ちのいい汗を流し、少しずつ着実にステップアップしています。皆さんのその様子に、私の方こそ元気をいただいた気がします。

ヨガ講師：波多野 ゆみ ヨガインストラクター

ヨガすることは自己を深めることにつながります。

そして何よりヨガは体と心に元気を与え、生きる力につながります。

それは、私がヨガから授かった実感。その実感を、必要な方に届けられるように、日々活動しています。新型コロナ禍、自宅にいる



時間が増えたことで、体や心の不調を感じている方も多くいらっしゃると思います。「お気楽ヨガ教室」ではゆっくり体を動かして、ゆっくり呼吸をして、本来もっている力を目覚めさせていきます。

参加者の殆どは初心者で、難しいポーズを取るというよりは心身のリフレッシュを目的に、メンバーさん同士のつながりもできて楽しく通っていただいています。

体が硬かったり、どこかに不調を抱えていたり、何かしら心配なこともあるかと思いますが、まずはお気軽にお越しください。

太極拳参加者 足立 広江 さん

昔からスポーツとはほぼ無縁だった私。

お友達から誘われて通い始めた“太極拳”。

中国人の若い先生にやさしく丁寧な指導を受ける“老婆の幸せ”。

お友達とのおしゃべりも最高に楽しい!!

しかし、なかなか覚えられないのは困ったものです。

昨年度まではコロナ禍による制約や人数減もありましたが、今年度は少しずつ参加される方が戻りつつあります。学園と地域との連携も、より実り多きものとなるよう、着実に育ててまいりたいと思っています。

Ⅱ 学園・高校／行事・クラブ活動

「マーチング聖地の牽引役を」 セントレアがTMBに音楽功労賞

TOHO MARCHING BAND(TMB)が中部国際空港(セントレア)から、「ライブハウス専属バンド」を意味する「ハコバン」の称号とともに音楽功労賞を贈られました。5月29日、セントレアイベントプラザで行われた表彰式では、「マーチングの聖地を目指すセントレア、これからもその牽引役を担ってください」とTMBの功績が称えられました。



セントレアでは2016年から毎年、空港をステージとする吹奏楽演奏と華麗なパレードが楽しめる「スカイ・

マーチング・フェスティバル」が開かれています。東邦学園公式バンドであるTMBに初の音楽功労賞を贈る理由としてセントレアは、「第1回以来の毎回出演で延べ出演回数は13回、延べ出演者は549人にのぼる」としています。以下は授賞コメントです。

〈中部地区を代表するスクールバンド東邦高校に愛知東邦大学が加わった「TOHO MARCHING BAND」。青い空、白い雲、青い海、滑走路を飛び立つ飛行機を背景に、黒いコスチュームの一団が、美しく迫力ある音色を奏でながら規律正しく行進する姿は圧巻の一言。マーチングの聖地を目指すセントレア、これからもその牽引役を担ってください〉

表彰式でTMBの白谷峰人音楽監督に手渡された表彰状では、「あなたは長きにわたりセントレア空港音楽祭の発展に大きく貢献されました。ここにハコバンの称号を贈り表彰いたします」と功績を称えました。

TMBを代表してお礼の言葉を述べたのは愛知東邦大学教育学部4年生の天野まいさん。天野さんは東邦高校時代から、「スカイ・マーチング・フェスティバル」には全て出場しており、「音楽を通して人々に勇気を与えられたことをうれしく思います」とあいさつしました。

表彰式では第1回からフェスティバルの企画運営を担当している株式会社イントロダクションの代表取締役の森庸全さん(東邦高校1965年卒)から記念の花束が贈られました。森さんは東邦高校が1963年に第11回全日本吹奏楽コンクール、第2回NHK全国学校楽器合奏コンクールで優勝した時の音楽部2年生。

森さんは表彰式後、「東邦の群を抜く迫力ある演奏と洗練された行進は圧巻の一語。現役メンバーともども、OBとして誇りを感じております」と感動を語ってくれました。

コロナ禍で5月の開催予定が延期を余儀なくされたこともあったものの、7年目を迎えた



2022年フェスティバル。TMBは5月29日午後、他5チームとともに空港を見渡すスカイデッキでのパレード、イベントプラザでのフロアショーに出演し、60人近いメンバーたちが迫力あふれる演奏で集まったマーチングファンらから盛んな拍手を送られました。



ミュージシャンシップへの評価に感謝

TMB音楽監督 白谷 峰人(東邦高校職員)

大変光栄です。2016年にスタートした企画に毎年お声がけいただき、通常では味わえないロケーションでのマーチングに、出演者は毎回心を躍らせながら、様々な構成でマーチングを披露してきました。これまで出演した学生・生徒たちのミュージシャンシップが評価されたことに感謝します。また「ハコバン」の称号をいただきましたので、この先セントレアが「マーチングの聖地」として確立されるよう、これまで以上に魅力的なマーチングを披露できるようがんばります。



セントレアで磨かれた演奏演技

TMB学生代表 天野 まい

(愛知東邦大学吹奏楽団団長)

東邦高校1年生で初めてスカイデッキパレードに出演した時は風がとても強く、飛ばされてしまうのではないかと思ったことは良い思い出です。お客様との距離も近くとても緊張したのを覚えています。毎年セントレアでの演奏を経験することで、演奏演技を通してお客様とコミュニケーションをとることの大切さを感じ、その技術に長けてきたと感じています。これからも「ハコバン」にふさわしい演奏をして、多くのお客様に私たちの演奏演技を観て、楽しんで頂きたいと思っています。



全国大会出場を目指して

男子ソフトテニス部顧問 若山 大樹、小川 礼

日頃からソフトテニス部の活動にご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。私たち男子ソフトテニス部は全国大会への出場を目標として掲げ、日々練習に励んでおります。前年度は東海大会への出場を果たすことができたものの、あと一步の所でインターハイには出場できず、今年度もその夢を果たすことはできませんでした。しかし、これまでの選手の想



いを継ぎ、来年度こそ全国大会に出場したいと考えております。

冒頭で感謝の意を述べさせていただきましたが、保護者の方や卒業生など、多くの方々に支えていただいていることで、私たちは夢に向かって挑戦できると考えております。今後も皆さま方への感謝の気持ちと、「応援される人間」であること忘れず、精進を続けて参りますので、今後ともソフトテニス部をよろしくお願いいたします。

愛知県大会ベスト8達成！

男子バレーボール部顧問 塚本 郁也

男子バレーボール部では、現在、3年生13人、2年生16人、1年生24人で活動しております。

練習できる環境が限られている中、与えられた環境で練習試合ごとに反省点と目標を上げていき、一日の



練習の質を高めることができるように日々尽力してきました。今回の大会で引退した3年生は、バレーボールで培ってきた経験を、ぜひ今後の人生

に生かしてってください。5月下旬から代替わりしましたが、1、2年生には、これからもバレーを通して人として成長できるように切磋琢磨して励んでほしいと思っています。感謝と礼儀を重んじた部活動として活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

新しい活動を模索して

JRC部顧問 古谷 嘉

JRC部は、2年生7名、1年生3名の計10名で活動しています。コロナ禍以前は、名古屋市の母子支援施設で子ども達の学習や遊びのサポートを行ってきました。しかしこの2年間で、施設への訪問ができなくなりました。また、企画した募金活動もコロナウイルスの感染拡大により頓挫することもありました。今年度は、募金活動を軸に活動することを目標にし、この5月、ようやく「あしなが学生募金」を実施することができました。昼休みの短い時間にも関わらず、多くの

人から寄付をいただけたことは、大きな喜びでした。またその一方で、募金の意義をどのように伝えるかが難しいことに気づきました。今後は呼びかけ方や告知方法などを工夫し、人々の善意をつなぐ架け橋として、活動を継続していきます。



演劇部活動報告

演劇部顧問 木庭 信耶

現在、演劇部員一同は7月下旬に行われる地区大会に向け日々、練習に励んでいます。昨年度もコロナ禍の中で、懸命に

活動をしてきました。制約の多い状況における上演をする中で、自分たちの芝居の見



せ方についても多くの研究をしました。そのような経験を積み、劇を上演できることに対する感謝の気持ちも強くなるとともに、自分たちの思いを表現することの素晴らしさをあらためて感じました。劇を演じるうえでは、個々の技量はもちろん全体のチームワークを求められるので、コミュニケーションも日々の練習では大切にしています。多くの新入部員を迎えた今年度はさらに挑戦を続けていきたいと考えています。

TOHO PRIDEを胸に

硬式野球部 3年マネージャー

伊藤 瀬菜、大橋 楓、川本 和奏、柴田 亜衣子

鈴木 美未、高橋 湖音、安田 桃花

硬式野球部は3年生24人、2年生25人、1年生25人、マネージャー16人の合計90人で活動しています。



今年も昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響により満足のいく活動ができたとはいえ

ませんでした。部員はそれぞれが出来ることを探して練習をしていました。しかし秋の県大会で悔しい思いをしました。部員はそれを糧に切磋琢磨し、全員が“TOHO PRIDE”を持って毎日練習に励み、その結果、春の県大会では10年ぶりとなる優勝を収めることができました。

夏の大会は3年生にとって集大成となる大会です。残された時間を悔い無く過ごすために、このチームの良さである声の掛け合い、お互いに支え合う事を忘れず、日々の練習に努めています。そして全員の目標である全国制覇に1歩ずつ近づいて行きます。私たちマネージャーも部員が甲子園に出場し輝けるように全力でサポートしていきます。これからも硬式野球部にご支援、ご声援のほど、よろしくお願いいたします。

特集 2

小さな大学が輝く偉業

硬式野球部が創部22年目で1部昇格 入替戦4連勝で快挙



1部昇格を決めマウンドに駆け寄る選手たち

愛知東邦大学硬式野球部が2022年春季入替戦で4連勝し、愛知大学野球リーグ1部昇格を決めました。01年に創部した硬式野球部にとって22年目にして辿り着いた夢舞台です。秋季からは、パロマ瑞穂球場などを舞台にした1部リーグに躍り出ることになった快挙に、100周年を前にした学園が歓喜に包まれました。

20年秋に2部で初優勝したものの、1部の東海学園大学との入替戦に2連敗した愛知東邦大学にとって、2年越しで達成した昇格となりました。21年の入替戦がコロナ禍で行われず、1部リーグ7校を本来の6校に戻すため、22年春季入替戦は、愛知産業大(1部7位)、東海学園大(6位)と2度の入替戦(各2勝先勝)



ガッツポーズで喜びの記念写真

を勝ち抜かなければなりません。その入替戦、愛知東邦大学は堂々4連勝でした。

1部昇格を決めた東海学園大

学との第2戦は6月12日正午から、愛知学院大日進グラウンドで行われ、多くの卒業生や選手の家族、学園関係者たちが声援を送り続けました。東海学園大学を7-3で制し1部昇格が決まったのは午後2時37分。4連勝の選手たちに榎直樹理事長は感動の思いを熱く語りました。

「22年間、本当にこの日を待ちました。君たちは歴史を創った。容易なことではなかった。2年前も同じ相手で、勝てずに悔しい思いをした。しかし、あきらめない。一人ひとり、きょうのゲームはどれもこれもみんなの執念があったと思う。22年かかったというのは先輩たちの一つひとつの歩みがあったというこ

とを忘れないでほしい。その積み重ねがあって今の君たちがいる」

秋季リーグ戦で対戦する1部リーグ校に名前



ベンチ前で熱い思いを語った榎理事長

を連ねるのは名城大学、愛知学院大学、愛知工業大学、中部大学、中京大学。榎理事長は「ほかの5校は私たちよりずっと規模が大きい大学。あえて言えば、こんな小さな大学で、君たちは本当によく偉業を成し遂げてくれました。最終目標は全国大会に行くこと。そのためには1部で優勝しなければならない。頑張れ。全国に行くぞ」と力を込めて語りました。

喜びの声

試合終了後、グラウンド、愛知東邦大陣営の1塁側ベンチ周辺では選手や応援に駆け付けた関係者たちの歓喜が爆発しました。

「練習と努力でここまでできた」

田中洋監督はグラウンドで共同取材に応えました。「3年生たちは1年生の時にも東海学園とやらせてもらった。3年生になって戦力がそろってきた。そこが大きい。チーム力が上がった。勝負できる年になった。見ていて分かるように、へたくそな集団が練習してここまでできた。彼ら、学生たちの努力です。すばらしい練習量と努力です。練習はうそをつかない。昨年から就任した森田泰弘総監督に室内練習場を設けていただ



胸上げされる田中監督

は、小さな体だが、ずっと勝ち続けてくれた。よくやってくれました。ちょっと休んでもらって今度はいよいよ1部の舞台で投げてほしい」

4年生3人で掲げたチームスローガン「歴史を創れ」



左から又吉主将、宮川投手、毛利選手

キャプテンの又吉李樹選手(4年)は「2年生で入替戦に出ました。あの時から、チームとしても、人としても成長することを重点的にやってきました。成長できたと思います。さらに今年は勝つことを第一に、がむしゃらに練習してきました。それがチームとして報われたのが一番うれしいです」。

今シーズン、チームスローガンとして、「歴史を創れ」「全国制覇」を掲げたことについては、「僕と池田和弥、大沢蒼早の4年生3人で、先輩たちが成し遂げられなかった1部昇格で歴史を創ろうと話し合い決めました。全国制覇のためには神宮に行って優勝しなければなりません。それが本当に歴史を創るという意味です」と声を弾ませました。

チーム一丸となってつかんだ1部昇格

投手陣の柱となり大車輪の活躍をした徳久遼投手(3年)は「1部昇格だけを目標にやってきた。つらい時もあり、楽な試合ばかりではなかったが、野手が助けてくれ、キャッチャーの松吉が自分を引き出してくれた。自分だけが抑えたということではなくて、チーム一丸となってつかんだ1部昇格だと思います。秋に1部では神宮大会に行けるよう引き締めていこうと思います」



松吉捕手とハイタッチする徳久投手

き、雨の日も練習ができるようになるなど、環境面がそろったことも非常に大きかった。リーグ戦、入替戦を投げ抜いた徳久

キャプテンの又吉李樹選手(4年)は「2年生で入替戦に出ました。あの時から、チームとしても、人としても成長することを重点的にやってきました。成長で

昇格を決めた最後の試合で先制の口火を切る2塁打を決め、再三の好守を見せた毛利水樹1塁手(3年)は

「打ててよかった」。開幕戦でもホームランを放つなど、大事な試合での活躍が目立つ点については、「(強運を)もっていると思います」。3回からリリーフのマウンドに立った1年生の宮川昂矢投手は「後ろで先輩たちが守ってくれました。最初は足が震えるほど緊張しましたが、回を追っていくごとに緊張も解けて、自分らしい打たせて取るというピッチングが出来ました」と笑顔でした。

「今年に行けると信じていた」

選手OBたちからも喜びの声が相次ぎました。2年前の入替戦ではマウンドに立った20年キャプテン野田晃誠さん(西濃運輸)は「2年前は2連敗でした。今、社会人野球の西濃運輸で投げていますが、母校の成績はずっと気にかけていました。東海学園大との初戦で勝ったことで、行けると思いました。きょうも初回到った時から、勢いがありました。徳久も素晴らしいかった」と後輩たちを称えました。

21年キャプテン金原瑤さん(社会人野球チーム・ロキテクノ富山)も



元キャプテンの野田さん(左)と金原さん

「富山から日帰りで応援に来ました。後輩たちの活躍がすごくうれしい。富山の企業チームで野球を続けていますが、応援に来てよかった。本当におめでとう」と満面の笑みでした。

「これはすごいことなんです」

01年創部の硬式野球部初代監督の袴田克彦さん(東邦高校事務部長)は涙で歓喜の輪に加わりました。田中監督に「ありがとう、ありがとう」と抱き着いた袴田さん。球場で見るのが怖くて、試合の様子は名東区の自宅で、ネット速報を見守り続けました。7回、東邦が追加点し6-3となった時点で自宅を出て愛知学院大近くの駐車場へ。しかし、車の中で見守ったネットがなかなか更新されず、たまたまキャンパス内に。引き上げる東学大の選手たちを見て、初めて東邦の勝利を確信したそうです。「見事に歴史を創ってくれました。これはすごいことなんです」。袴田さんの目から涙が止まりませんでした。



袴田さん(右)にあいさつする主務の眞柄直人さん(3年)

22年目でたどり着いた1部リーグの扉

硬式野球部の誕生



4年生最後の試合に集まった創部メンバーたち(2004年10月)

愛知東邦大学に硬式野球部が誕生したのは、「東邦学園大学」として開学した2001年。強化指定クラブ制度もなく、自発的に名乗り出た部員13人でのスタートでした。初代監督に就任したのは入試広報室職員だった袴田克彦さん(現在、東邦高校事務部長)。袴田さんは東邦高校野球部OB(41回生)で、1989(平成元)年、東邦高校が戦後初のセンバツ全国制覇を飾った時の3年生マネジャーでした。

13人の中には高校には野球部がなくラグビー部だったという部員もありましたし、6人いた東邦高校出身者も2人が軟式野球部出身で、硬式野球部出身の4人も正選手の経験はありませんでした。女子マネジャーを買って出た岡本千佳さんは東邦短大1年生で野球経験はゼロでした。

日進グラウンドが開設されるのは2007年。誕生したばかりの硬式野球部はS棟横にあったテニスコートでの守備や投球練習、C棟が出来る前にあったゴルフ練習場で、ゴルフボールを使ったトスバッティングの練習もしました。主な練習場はナイター設備のある日進市総合運動公園。事前に利用手続きをしたうえで練習に取り組みましたが、袴田監督は大学職員としての仕事を終えた後に駆け付けノックバットを握りました。

強化指定クラブに

デビュー戦は2001年秋、愛知大学野球4部リーグでした。4部参加校は愛知大学、愛知工業大学、名城大学、名古屋大学、東邦学園大学、愛知文教大学、名古屋産業大学の7校。東邦、愛知文教、名古屋産業以外の4校は本来1部リーグ所属でしたが、連盟運営方針を巡る分裂騒ぎがあり、4部リーグからの再出発を余儀な

くされていました。元1部校が次々に昇格していった“幸運”もあり、東邦は翌2002年秋には1、2年生だけのチームで初優勝し3部リーグ昇格を決めました。「創部2年目でのリーグ優勝、リーグ昇格は1949年発足の連盟史上初めての快挙」と、当時顧問だった杉谷正次経営学部教授は「邦苑」24号に喜びを報告しています。

しかし、3部昇格の2003年春は2勝10敗で最下位となり4部に降格。2004年春に2度目の3部昇格を果たしたものの3勝9敗1分でまたも最下位となり再び4部へ。2006年度から強化指定クラブとなりました。監督も袴田さんの後輩で、東邦高校時代に3度の甲子園出場、東北福祉大時代には全日本大学野球選手権も体験している高木雄二さんが入試広報室職員として招かれ就任しました。

遠い2部リーグ

高木監督のもと、強化指定クラブとして再出発した硬式野球部は2006年には春、秋とも4部2位で入替戦に出場。春は敗退しましたが秋は勝って2007年春には3度目の3部復帰を決めました。しかし苦難は続きました。2010年にはやっと2部リーグに上がりましたが、春、秋とも5位に終わり、秋には入替戦にも敗れ、2011年からは3部に逆戻り。2012年春は後半5連敗し4位でした。ただ、秋からのリーグ再編で2部リーグが6校から12校(A・Bリーグ)に拡大されたことで愛知東邦大学も2部Bリーグに「昇格」となりました。

しかし、結果は0勝10敗で最下位。2部残留をかけた2部・3部リーグ入替戦でも3部の名古屋大



3部に降格した名古屋大学との入替戦(2012年11月)

学に連敗し、春季後半から17連敗で3部陥落が決まりました。

横道監督の緊急登板

2013年春からの指揮はやはり東邦高校OBで61歳だった横道政男監督に託されました。横道監督は東邦

高校、中央大学卒。東邦高校3年生だった1969年夏には、愛知県大会準決勝の中京戦で逆転サヨナラ本塁打を決め、阪口慶三監督にとって初の甲子園出場に導きました。

2013年春は3部リーグで優勝、名古屋学院大との2部入替戦にも連勝して2部復帰。2部リーグでは2016年秋Aリーグ、2017年秋Bリーグ、2018年秋Aリーグでいずれも1位でプレーオフに出場。しかし、2016年は愛知大、2017年は名古屋商科大、2018年は愛知工業大に敗れ、入替戦には進めませんでした。



初の2部優勝盾を手にする横道監督。右は主務の武田祥吾さん

4度目の1位となった2020年秋にはプレーオフでも日本福祉大を破り初の2部優勝。しかし、1部昇格をかけた入替戦では残念ながら1部6位の東海学園大に連敗、1部リーグ昇格はなりませんでした。

田中監督就任2年目でたどりついた1部

2020年4月からは東邦高校球部監督を退任した森田泰弘氏が、東邦学園野球部総監督に就任し、高校、大学野球部のバックアップ体制が強化されました。横道監督は2021年で70歳を迎えるのを機に2020年シーズンを最後に勇退、2021年1月からは田中洋コーチが第4代監督に就任しました。

田中監督は愛知学院大学で監督を5年、コーチを10年経験。2018年7月に愛知東邦大コーチに就任し、横道監督のもとでの2020年秋、初の2部優勝に貢献しました。

田中監督が監督とし初采配したのはコロナ禍の2021年春は2部Aリーグで7勝3敗の2位。12校総当たり戦となった秋は、コロナでの出場辞退(不戦敗)もあり2勝9敗で9位。しかし、監督就任2年目の2022年春、堂々の2部優勝。入替戦でも1部2校に4戦4勝しついに1部リーグの扉にたどり着きました。

硬式野球部1部リーグ昇格までの歩み

年	春	秋
2001年	創部	4部 4勝4敗で5位
2002年	4部 6勝6敗で3位	4部 11勝3敗で初優勝
2003年	3部 2勝10敗で6位	4部 8勝2敗で2位
2004年	3部 3勝9敗1分で6位	4部 5勝6敗で4位
2005年	4部 10勝0敗1分で優勝	4部 8勝4敗で3位
2006年	4部 9勝3敗で2位	4部 8勝3敗で2位
2007年	3部 5勝7敗で3位	3部 7勝6敗で3位
2008年	3部 6勝5敗で3位	3部 6勝6敗で3位
2009年	3部 7勝4敗で4位	3部 8勝5敗で2位
2010年	2部 4勝7敗で5位	2部 5勝7敗で5位
2011年	3部 3勝8敗で5位	3部 6勝5敗で3位
2012年	3部 5勝7敗1分で4位	2部B 0勝10敗で6位
2013年	3部 8勝0敗で優勝	2部B 7勝3敗で2位
2014年	2部A 7勝3敗で2位	2部B 4勝6敗で4位
2015年	2部A 7勝3敗で2位	2部B 4勝6敗で5位
2016年	2部B 6勝4敗で2位	2部A 7勝3敗で1位
2017年	2部A 5勝5敗で4位	2部B 8勝2敗で1位
2018年	2部B 4勝6敗で4位	2部A 7勝3敗で1位
2019年	2部A 5勝5敗で2位	2部B 6勝4敗で2位
2020年	コロナ禍で中止	2部A 9勝1敗で1位2部初優勝 入替戦で東海学園大(1部6位)に敗退
2021年	2部A 7勝3敗で2位	2部(総当たり戦) 2勝9敗で9位
2022年	2部(総当たり戦) 優勝。入替戦で愛産大(1部7位)、東海学園大(同6位)にそれぞれ連勝し1部昇格	

大学／行事・クラブ活動

東邦STEP2022年度 新入生オリエンテーション

松井 慶太(東邦STEP顧問)

東邦STEPは4年間かけて採用試験突破をめざす“勉強の部活”です。コースは国家行政、地方行政、警察官、消防士、保育職、小学校教員、保健体育教員の7つです。2015年度に公務員コース単体でプログラムを開始してから8年目を迎えました。

毎年思うことですが、春の時期は何人の新入生が受講してくれるのか期待と不安が入り混じります。4月中は、1人でも多く勇気ある一步を踏み出すきっかけが作れば……と思いながら学生達に情報発信を続けます。東邦STEPの受講料は決して安くはない金額です。お金も時間も必要、その中で決断することは学生本人も本当に覚悟が必要なことです。何と言っても“やらなくてはいけないこと”ではないからです。

そんな中、4月末の申し込み締め切りを迎えました。1年生で申し込んでくれた学生は合計59名(経営学部：19名 人間健康学部：30名 教育学部：10名)



です。2022年度入学生は342名だったため、実に入学した学生の17.3%が受講してくれました。6人に1人以上の割合

です。2017年度以降はこのくらいの数字で落ち着いてきました。ただ、この59名にアンケートをとったところ、興味深い数値が出ました。「説明会(動画)の内容を聞いて受講を決めた」この回答はわずか9名だけでした。それ以外の50名は入学を決めた段階以前に受講を決意しており、半分近い27名は受験の段階で決めていたそうです。これは数年前に比べるとかなり高い数値です。それだけ大学で頑張ろうと思っている学生が多いということにすごく嬉しくなりました。

この59名が最初に集まった日は5月7日(土)です。受講生に対するオリエンテーションと模試を実施しました。写真の通り、階段教室に一杯です。この日をオープニングとして、週1回3時間の講座活動が1年間続きます。1年後は、東邦STEPを継続するのか、新しい目標を見つけて違う努力をするのか、一人ひとりの判断が待っています。入学当初を思い出した時、あの時勇気を出して受講して良かったと思える学生生活になるように支援していきたいと思えます。

受講生のみなさん、まずは1年間頑張りましょう！
よろしくお願いします。

キャリア支援センターが3年生保証人に 就職ガイダンス開催

2022年度教育懇談会・後援会総会開催に合わせ、3年生保証人を対象にした「就職ガイダンス」が5月14日、対面とオンライン方式で開催されました。

B棟103教室での対面ガイダンスは2020年度以降コロナ禍で開催できなかったため、2019年以来3年ぶりの開催。在学生の保証人約30人が参加しました。

開会にあたり、主催したキャリア支援センターの手嶋慎介センター長(経営学部教授)は「本学ではキャリア支援センターを中心に、教員・職員が一体となって学生たちをサポートしていく体制を整えています」とあいさつ。学生・キャリア支援課の柴田千登勢課長も「学生たちは大きな試練に立ち向かうことになります。社会人の先輩として、ぜひご家庭で、学生たちの話を聞いて、励ましていただければと思います」と述べました。幼稚園・小学校教諭、中学・高校の保健体育教諭、保育士を目指す学生たちへも、教職支援センター担当職員からサポート体制の紹介がありました。

ガイダンスでは学生・キャリア支援課の松井慶太さんが、事前に参加予定者から寄せられた質問に基づいて、2024年3月卒業予定の3年生たちの就職活動、支援体制についての説明を行いました。

松井さんは「マイナビ」「リクナビ」などサイトを使った就職活動の現状を中心に説明。「高校とは異なり、大学では全国の企業がナビサイトで求人票を出し、全国の学生たちがアクセスする形のプラットフォームを使って就職活動をしていくことになります」「大学に届く求人票も学生たちは自宅で閲覧できますので、ぜひ家族で一緒に見て、社会人視点のアドバイスもしてあげてください」と呼びかけました。

ガイダンスに聞き入った人間健康学部男子学生の母親は「30年近く前の自分たちの時代とは随分違うと思いました。マイナビとかは聞いたことがありますが、こういうことかと分かりました」と感想を語りました。

夫婦で参加した経営学部地域ビジネス学科女子学生の母親は「1年生の時は公務員も考えて東邦STEPをやったが、今は一般企業も考え、インターンシップも申し込み、スケジュールにそって動き出しているようです。ガイダンスで全体的なことが分かりました」。やはり夫婦で参加の同学科男子学生の父親は「本格的な活動はこれから。厳しい就職活動になるのでは」とやや厳しい表情でした。

同日午後3時から同一の内容で開催されたオンラインでのガイダンスにも約40人の参加がありました。

松井さんは「保証人のみなさまと就職活動について

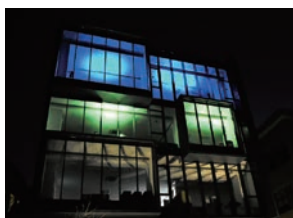


共有することで、今後キャリア支援センターが主催する様々な企画や支援の意図が伝われば嬉しいです。オンラインは初開催で、接続等の不安はありましたが、無事に終わられました。遠方の方もいらっしゃるの、今後も併用で参加しやすい環境を作っていきたいと思っています」と話しています。

ウクライナ平和願い L棟ライトアップ

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が続き、ウクライナ支援の輪が世界に広まる中、大学でも3月15日夜、平和への願いを込め、L棟が青色と黄色にライトアップされました。

L棟の4階・3階フロアの天井をウクライナ国旗と同じ青色・黄色にプロジェクションマッピングする方法で行われました。午後6時～同8時、4月1日までの予定でしたが、新学期以降も4月15日まで続きました。



3月15日夕から、経営学部の谷口正博准教授(エンターテインメント情報学)と指導学生の小塚拓真さん(4年)、菌部悠希さん(2年)、井上和奏さん(同)によって設営と試験点灯が行われました。谷口准教授は、「学生たちに世界でこんなことが起こっているということを考えるきっかけにしたいと思った。春休みで学生たちはいませんが、近所の方々と大学から坂を下がった一帯からも青と黄色がぼんやり見えたと思います」と語りました。

2021年度『複数学位取得プログラム』参加留学生、本年4月に漸く来日

国際交流センター 安井 文康

本学では2018年度より、海外交流協定校(中国)の編転入学プログラムを実施しています。

以前もご紹介しましたが、このプログラムは、本学の中国交流協定校で3年生の第1タームまでを過ごした学生が、それまでの成績などで学内選抜者として本学への編転入学試験を受験し、合格者は来日して本学で3、4年生を留学生として過ごして、卒業要件の単位を修得するというものです。そして合計4.5年で、自国の在籍校での学位と本学の学位との二つの学位取得をすることができます。

また、その留学生の多くは学位取得を達成した後に日本の大学院へ進学を希望し、その夢を叶えています。しかし2019年度の末頃から現在まで、コロナ禍による政府の水際対策により、留学生たちはたとえ在留資格の取得ができていたとしても、中々予定通り日本へ入国することができていません。

2020年度の編入生については、コロナによる入国制限により予定から8か月ほど遅れての入国であったため、本学での在籍日数は1年と数か月でした。

そんなハンディもありながら、2020年度編入生および研究生は神戸大学大学院、法政大学大学院、埼玉大学大学院に合格、また研究生として本学に在籍した2019年度生は名古屋市立大学大学院に合格しています。

2021年度の編入生は、予定から1年以上入国を待ち、本年4月末ようやく来日をされました。本学での在籍期間はわずか数か月しかありませんが、日本の大学院進学に向け日々勉強に励んでいます。

4月までの間、彼らは自国に留まり、本学のリモート授業や本学の学生たちがリモート

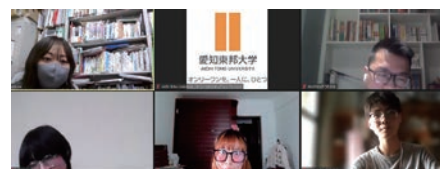


でのコミュニティを開催することで、なんとか日本留学への希望を繋いでいたことと思います。

現在、日本政府が水際対策を段階的に緩和していますが、母国に待機している留学生はまだ多いのが現状です。2022年度編入生については、ビザ申請書類は在中日本公館で受理され約2か月が経過したものの、未だビザは発給されていません。そこで残念ながら本年度もリモート授業をスタートさせています。

そんな中、本年度、国際交流センターでは、母国に待機する留学生に向けて、有志学生によるオンライン日本語サポートを、今までよりさらに手厚く実施する予定です。

リモート授業のない時間帯にはほとんど実



施できるように回数を増やし、また同じ学生ばかりが対応することもなく、たくさんの日本人学生とたわいもない会話を日本語で実施することで、日本語能力を維持・向上させることを実施します。

また、リモート終了後には日本人学生から会話時の日本語のアウトプットについてのチェックメールを入れるなどをして、さらに復習の時間を持つようにします。これを繰り返し実施することで、自身の日本語強化とともに、来日時にスムーズに大学へ通学することができることをねらいとしています。

また、そんな彼らが日々、学業に対して真摯に取り組む姿は、日本人在学生にも少なからず良い影響を与えてくれるはずです。

昨今の世界情勢に鑑みれば、各国の間には様々な問題が山積しており、日中関係、また米中関係は悪化の一途を辿っているように感じます。

当たり前のことですが、個々の留学生たちにとってそんなことはまったく関係ありません。彼らはとても

純粹に、自身の将来に向けて着々と努力を重ねています。

今後もそんな真摯に机に向かう彼らの姿を、素直に応援できたらと思います。

すべてはトレーニング指導対象者のために

ATTOヘッドストレング&コンディショニングコーチ

芝 純平(人間健康学部 助教)

現在、ATTOは4年生3名、3年生5名、2年生2名、1年生4名の計14名で、毎週月曜日にクラブ活動を行なっています。昨年度は、新型コロナウイルスの影響により課外活動が行なえたり行えなかったりと、不安定な活動が続きました。

今年度に入り、対面での課外活動が行なえるようになり、また代替わりした3年生たちのキャラクターのおかげで、いろいろな活動を積極的に行なえています。毎週月曜日の実技を含んだ勉強会に加えて、クラブ活動日以外の日は本学の女子バスケットボール部と女子サッカー部、また他大学のアメリカンフットボール部でトレーニング指導活動をするため現場に出て



います。その他に、本クラブからNSCA認定パーソナルトレーナー(NSCA - CPT)の資格に3年生2名が合格しました。

朝からキャンパスの施設時間まで仲間と集まって「あーでもない、こうでもない」「このデータ、どうしたらいいと思いますか？」などトレーニング指導対象者のため、また資格取得や将来に向けて、毎日研鑽に励んでいます。私の学生時代には、学内にこういった仲間がいなかったため、その光景をととても羨ましく見守っています。また、学びたいと思っていたことの大変さを感じている反面、忙しいながらも楽しそう？に活動しているのを見ると、人生において数年の大学生活を謳歌しているのではないかと思います。

まだまだ未熟な部分や責任感といった点で至らない点もありますが、将来関わるアスリートやクライアントといったトレーニング指導対象者のため、今後も研鑽を積んでまいります。また、私自身も学生たちがより学びを深めて実践できる環境を作れるよう、研鑽を積んでまいります。今後ともATTOの活動を見守り支援していただければ幸いです。

TOHO Learning House 新しい1年の始まり

学生・キャリア支援課 河合 厚志

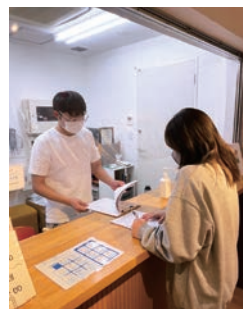
3月末、先輩寮生による総括報告会が実施され、4

年生が退寮していき、寂しくも慌ただしい年度末が終わって、TOHO Learning House(以下TLH)も新年度を迎えました。

2022年度は在学生1名の新入寮生と中国からの留学生6名(6月頃までにはあと4名入寮予定)が加わり、17名で新たな1年をスタートしました。

昨年度の1月からゲストハウスが再開され、寮生は感染防止を徹底する中、接客から売上管理、新たな企画などに精力的に取り組んでいます。

特に4月からは卒業した先輩寮生もいないため、ゲストハウス運営においては、自分たちで考え、判断し行動するという、試行錯誤の毎日を経験しています。4月の下旬に入国した中国からの留学生たちも積極的にゲストハウスの運営に関わってくれています。接客のオペレーションから売上管理まで、「日本での新生活を始めながら違う言語で新しい業務を覚える」という難しい状況の中、楽しみながら取り組んでいます。ゲストハウスが稼働したことに伴い、経営学部の寮生ではない学生が講義を通してゲストハウスの新しいプランを提案するなど、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていた中では出来なかった新しい動きも出てきています。



ゲストハウス業務を通じた実践的な社会経験と国際交流、新たな企画の検討。こうした活動がTLHの強みでもあり、他の学生寮には無い貴重な仕組みです。この3年間、様々なことが制限されている難しい状況の中でも、自分たちらしさを出しながら新しいことに挑戦していく—こうしたことを卒業した先輩たちは残してくれています。

これまでの経験を引き継ぎながら、自分たちの新しい挑戦をしていく、新たな1年が始まっています。

学生の生きた学びの現場が、昼夜問わず展開されています。教職員の皆様もお時間がある時に是非お越し頂ければと思います。

コロナ禍での学生会の活動

学生会 紙屋 美咲(人間健康学部4年)

こんにちは。学生会です。

学生会とは、学内ではイベントの企画運営、そして学外では地域のイベントへの参加や運営のお手伝いなどをしている団体です。

これらのイベントを成功させるために、毎週月曜日に会議を行っています。しかし、新型コロナウイルスの影響によりイベント自体が中止になったり、会議をリモートで行うなど、例年通りの活動ができない状



況になってしまいました。

そんな中でも、例年とは異なる形にはなりつつも、実施することができた企画もあります。

その例として卒業記念パーティーがあります。コロナ禍前は、ホテルの広い会場で友人や教職員の方と立食しながら大学生活最後の会話をしたり、ビンゴ大会で景品獲得をめざして楽しんだり、思い出ムービーを観て思い出に浸ったりなどをしていました。しかし、コロナ禍になるとまずホテルの会場に大人数が集まることすら不可能となってしまいました。そこで考えたのは、どうしたら人が集まらずに大学最後の思い出作りができるのかということでした。

具体的には、近年インスタ映えが流行していたことからヒントを得て、大学の敷地内に卒業証書をイメージしたものや桜が描かれたものなど3枚のフォトパネルと、TOHOという文字の箱文字を設置しました。そこで写真を撮ってもらうことで、画像として思い出ができると考えました。また、立食ができない代わりに各々が好きなものを選んでゲットできるカタログギフトをプレゼントしました。最終的に卒業記念イベントとして学生会は卒業生の思い出作りのお手伝いをすることができたと思っています。

また、最近になり、復活したイベントもありました。藤が丘駅周辺を綺麗にする藤が丘クリーンキャンペーンには2年ぶりに参加することができました。

最後に、コロナ禍を経験したからこそできることなどを考えながら、過去にとらわれず様々なイベントの企画運営、参加をしていければよいと思っております。

こんにちは！ FREE STYLEです！

福島 右京(人間健康学部3年)

FREE STYLEは、愛知東邦大学が開学当初からある最も歴史のあるサークルです！初心者から経験者、インストラクターまで幅広い人達が所属しています！

私たちはただ練習するのではなく、仲間同士でアドバイスをし合ったり、サイファー形式(人がサークルを作ってその中で踊る形式)で練習したりするなど、工夫しながら、ダンスをする楽しさも忘れずに日々練習しています！

前々から続くコロナ禍の影響で上手くないことばかりですが、今では年代問わずにOB・OGの先輩方が忙しい中、仕事終わりに来てくれたり、外部の方も練習しに来て



くれるなど、日々皆さまの温かい支えの中で、現役である私たちも頑張っています！

過去には、念願である「マイナビDANCE ALIVE HERO'S」に2年連続出場し、東京の大きな舞台である両国国技館で踊ることが出来ました！

このコロナ禍の時期だからこそ、何事も諦めるのではなく自分たちにできることを精一杯やって、4年生の卒業時には、思い出が溢れるように楽しく活動を行っていきます！

今後とも応援のほどよろしくお願いします！

アルティメット部 CloseLynx(クロスリンクス)の紹介

玉家 玲央(教育学部4年)

こんにちは、愛知東邦大学アルティメット部 CloseLynx (クロスリンクス)キャプテンの玉家です。

まず、「アルティメット」と聞いてピンとくる人は多くないと思います。アルティメットとはフライングディスクを使ったチームスポーツです。名前の通り「投げる」「飛ぶ」「走る」など幅広い能力が必要となります。簡単なルールとして100m×37mのフィールド内でフライングディスクをパスしながらつなぎ、コート両サイドにあるエンドゾーン(18m)と呼ばれるエリアでディスクをキャッチすれば得点が入り、その得点を競い合うスポーツです。

現在4年生4名、3年生3名、2年生6名、1年生9名。

計22名で活動しています。

昨年度は、オープン・ウィメン部門共に他大学や社会人の方々と合同チームを組み大会に出場したり、毎月開催される5人制の大会にも積極的に参加していきましました。初めは全敗してしまう事もありましたが、練習を重ねていく内に段々と勝てる様になり、2月の大会では2位を獲得することができました。

今年度は、新入部員が増え出場できる大会も増えてくるので、まずは上位リーグに進出できるよう練習を頑張っていこうと思います。

アルティメットというのは大学から始める人がほとんどです。今からでも練習すればするほど上手くなると考えています。チームのキャプテンとしてアルティメットという競技と向き合い、チーム全員で先輩後輩関係なく戦術について話し合い、時には勝って喜び、時には負けて悔しがるようなチームを目指していこうと思います。応援のほどよろしくお願いします。



東邦学園 事業報告・事業計画

2021年度事業報告

2021年度は第三期中期5カ年計画の初年度で、高校は「目指す生徒像」、大学は「人材育成と学術で地域社会の活力を生む創発大学」を掲げて、諸事業に取り組んだ。

新型コロナは、2021年度もウイルスの変異と感染者の増減が繰り返し、休校や学級閉鎖、これに伴う授業のオンライン化、修学旅行や学園祭、対外試合の中止などを余儀なくされた。ワクチン接種は国に申請した大規模対応が実現しなかったが、県の支援も利用し、生徒・学生・教職員に対して早めの機会を提供できた。「コロナ抑え込み」のあおりを受け、中国など海外からの留学生は入国が不可能となった。

困難に対処する「授業のオンライン化」は、ハード面で高校が既に計画済みだったタブレットの全員所持(2022年度達成)、大学もPC必携化(2021年度開始、2024年度達成)、Wi-Fi環境の整備によって、2020年度当初のようなハード、ソフト両面の混乱は、生徒・学生、教職員それぞれの習熟もあって収まり、「新たな学びの環境」と受け止める側面も生まれた。

学校を巡る評価と内外の環境が反映する生徒・学生の入学者は、2021年度末(2022年度入学者)でみると、高校が県下最多、30年ぶりの多数となった。地道な成果の積み重ねと明るい校風に、一般試験日の移動も好作用し、一挙増となった。大学は受験生が全国的に浪人を避けて手堅い進路先を選択、大多数の大学も総合型選抜で入学者を早期に囲い込む傾向が強まり、本学は定員を僅かながら5年ぶりに下回った。

学びの充実と特色を伸ばす環境の整備は、創立100周年事業の一環として検討を進める中、高校の入学者急増によって教室不足が必至となったため予定を繰上げた。高校の美術科のアトリエ移転に伴う「創作棟」の新築、国際探究コースと普通コース用の教室改修——を立案し、2022年度末の新築・改修に向けて作業に入った。大学は近い将来の中規模化を見据えて、隣地を買い増しし、キャンパス拡張に合わせて地域との結びつき、学び直し、インキュベーションの拠点等を設けるプラン等の検討を進めた。

また、100周年記念の諸事業は、大学が創立25年目となる2025年度までを事業期間として、立案と募金も始めた。既に卒業生、企業、教職員から大口の寄付を頂いている。

諸活動を踏まえた学園全体の収支決算は、事業活

動収支において基本金組入前当年度収支差額が1億9,408万円の収入超となった。2020年度は高校における大規模修繕と大学生への支援金給付が重なり、収支ほぼ同額の決算(73万円の収入超)だったが、2021年度は多額の支出がなく好転した。このため、資金収支における翌年度繰越支払資金は22億9,627万円で、2020年度決算時から1億5,251万円を上乗せできた。また減価償却引当特定預金は1億円余を繰り入れ、計5億3,945万円である。長期借入金はや予定通り返済し、残高は7億1,527万円に減った。

2022年度事業計画

【法人(東邦学園)】

1.ブランディング

【課題】愛知東邦大学と東邦高校に対する認知度・好感度・入学意向率・推奨率の向上へ、ブランディングを推進。

【方針】メッセージ性ある広報活動を効率的に進め、偏差値による序列では選択基準とならない強み・特色を培って、認知度や好感度をより高める。

【目標】大学と高校の双方の中期計画の定員計画・財務目標の達成を図る。

2.キャンパス整備の推進

【課題】教育の特色づくりと入学者増に対応する高校設備の充実、大学隣接地のキャンパス構想の実現、指定強化クラブの競技施設の向上、飲食・購買・移動等学生生活に関するサービスの向上、キャンパスのカーボンニュートラル推進(SDGs)。

【方針】学生・地域・社会にとって魅力あるキャンパスの実現、学園立地に沿った建物・サービス、CO₂削減への貢献、大学の中期計画のCampus Planning for 2030の実現を目指す。

【目標】2022年度大学の新規食堂オープン、大学野球部寮の移転、2023年度高校美術科教室の新設準備、サッカー部寮の契約、2024年度サッカーグラウンド新設、2025年度大学新キャンパスオープン。

3.教育・学生生活支援サービスの向上と業務生産性の向上

【課題】ポストコロナにおける教育のICT活用の促進、GIGAスクール構想への対応、データやインテリジェンスの活用、業務の生産性向上と教育支援サービスの向上。

【方針】常任理事会直下にDX推進本部を設置、その下にDX推進室(大学)とメディア推進会議(高校)を置

事業活動収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日

(単位：千円)

科 目			予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 納 付 金	2,439,001	2,428,521	10,480
		手 数 料	44,272	58,612	△ 14,340
		寄 付 金	46,260	64,207	△ 17,947
		経 常 費 補 助 金	992,132	1,057,033	△ 64,901
		付 随 事 業 収 入	20,773	24,246	△ 3,473
		雑 収 入	170,998	175,815	△ 4,817
		教 育 活 動 収 入 計	3,713,436	3,808,437	△ 95,001
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		人 件 費	2,285,614	2,282,771	2,843
		教 育 研 究 経 費	1,169,539	1,130,372	39,167
		管 理 経 費	304,161	272,630	31,531
		徴 収 不 能 額 等	0	△ 290	290
		教 育 活 動 支 出 計	3,759,314	3,685,484	73,830
	教育活動収支差額		△ 45,878	122,953	△ 168,831
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受 取 利 息 ・ 配 当 金	562	1,263	△ 701
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教 育 活 動 外 収 入 計	562	1,263	△ 701
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借 入 金 等 利 息	9,042	9,018	24
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教 育 活 動 外 支 出 計	9,042	9,018	24
	教育活動外収支差額		△ 8,480	△ 7,754	△ 726
	経常収支差額		△ 54,358	115,198	△ 169,556
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資 産 売 却 差 額	0	0	0
		そ の 他 の 特 別 収 入	77,099	77,962	△ 863
		特 別 収 入 計	77,099	77,962	△ 863
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資 産 処 分 差 額	1,240	400	840
		そ の 他 の 特 別 支 出	0	0	0
		特 別 支 出 計	1,240	400	840
	特別収支差額		75,859	77,561	△ 1,702

基本金組入前当年度収支差額	12,501	192,760	△ 180,259
基本金組入額合計	△ 216,068	△ 269,612	53,544
当年度収支差額	△ 203,567	△ 76,852	△ 126,715
前年度繰越収支差額	△ 4,451,345	△ 4,451,345	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 4,654,912	△ 4,528,197	△ 126,715

(参 考)

事業活動収入計	3,791,097	3,887,663	△ 96,566
事業活動支出計	3,778,596	3,694,903	83,693

いて推進する。

【目標】DX推進の体制づくり(組織と人材確保)、DX推進に必要な規程・マニュアル・ポリシー等の整備、学生データベース改善と活用、教育支援サービス、学生情報ポータルの向上。学内諸手続きと伝達に関しては「ペーパーレス化」と「決裁に関わる押印の原則廃止」を念頭に置き、権限の分散も含む「フローと業務」の抜本的見直し。

4.組織行動管理と人材活用の取組

【課題】法人・大学における、部署と業務を予め定めて責任者と熟練担当者を固定化する縦割り・属人的組織運営から、課題別にリーダーも担当者も縦横に組み代わるフリー・アドレス型運営への移行を進める。当面はプロジェクト別の業務運営を順次増やす。大学における教職連携の強化、高校の役職人事制度の改善、健康経営&働き改革の実現、専用人材の確保と人材活用、フレンズTOHOなどの外部ネットワークの有効活用・活性化。

【方針】ヒトのモチベーションマネジメントの向上と組織行動の進化の両立を目指す。

【目標】各組織の目標管理、予算策定、成果把握の運営サイクル精度向上。

5.リスクマネジメント&ガバナンス(内部統制)強化

(中期5か年計画：法人4)

【課題】災害やインシデント対応力の強化、ハラスメント等の人権侵害発生の抑制、複雑化高度化するリーガル案件対応力の強化、変化に対する反応を素早く行える体制づくり。

【方針】法人主体の高大合同研修、全学SD研修に加え、時事的なテーマのeラーニングによる自主的な研修を導入する。

【目標】災害に強いレジリエンスの獲得。

6.財務体質の改善(中期5か年計画：法人1、大学26)

【課題】脆弱な財務体質の改善(中長期)と短期的資金需要への対応。

【方針】財務ポートフォリオ改善のシナリオづくりと、ROI設計に基づく投資判断、段階的経費削減項目の選定と実施、創立100周年～大学25周年での寄付金募集と協賛獲得。

【目標】自己資金に対する長期借入金比率を引き下げ、運用可能資産を増加。

詳細はこちら→



貸 借 対 照 表

令和4年3月31日

(単位：千円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	8,044,710	8,195,260	△ 150,550
有 形 固 定 資 産	7,094,318	7,346,608	△ 252,290
特 定 資 産	941,695	839,695	102,000
そ の 他 の 固 定 資 産	8,696	8,957	△ 261
流 動 資 産	2,562,336	2,257,422	304,914
資 産 の 部 合 計	10,607,046	10,452,683	154,363
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 負 債	1,165,113	1,285,669	△ 120,556
流 動 負 債	933,963	851,804	82,159
負 債 の 部 合 計	2,099,077	2,137,473	△ 38,396
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基 本 金	13,036,167	12,766,554	269,613
第 1 号 基 本 金	12,551,267	12,332,654	218,613
第 3 号 基 本 金	217,900	217,900	0
第 4 号 基 本 金	267,000	216,000	51,000
繰 越 収 入 差 額	△ 4,528,197	△ 4,451,345	△ 76,852
純 資 産 の 部 合 計	8,507,969	8,315,209	192,760
負債及び純資産の部合計	10,607,046	10,452,683	154,363

活動区分資金収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日

(単位：千円)

教育活動による資金収支	
教育活動資金収入計	3,808,437
教育活動資金支出計	3,239,240
調 整 勘 定 等	△ 85,271
①教育活動資金収支差額	483,926
施設整備等活動による資金収支	
施設整備等活動資金収入計	75,578
施設整備等活動資金支出計	272,454
調 整 勘 定 等	△ 39,313
②設備整備等活動資金収支差額	△ 236,189
その他の活動による資金収支	
その他の活動資金収入計	56,024
その他の活動資金支出計	151,242
調 整 勘 定 等	0
③その他の活動資金収支差額	△ 95,218
支払資金の増減額(①+②+③)	152,519
前年度繰越支払資金	2,143,751
翌年度繰越支払資金	2,296,270

資金収支計算書

令和3年4月1日から令和4年3月31日

(単位：千円)

収入の部				支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異	科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒納付金収入	2,439,001	2,428,521	10,480	人 件 費 支 出	2,265,210	2,263,103	2,107
手 数 料 収 入	44,272	58,612	△ 14,340	教育研究経費支出	747,169	707,537	39,632
寄 付 金 収 入	46,260	64,207	△ 17,947	管 理 経 費 支 出	300,117	268,599	31,518
補 助 金 収 入	1,067,961	1,132,611	△ 64,650	借入金等利息支出	9,042	9,018	24
資 産 売 却 収 入	0	0	0	借入金等返済支出	140,224	140,224	0
付随事業・収益事業収入	20,773	24,246	△ 3,473	施 設 関 係 支 出	51,579	51,509	70
受取利息・配当金収入	562	1,263	△ 701	設 備 関 係 支 出	125,348	120,945	4,403
雑 収 入	170,998	175,815	△ 4,817	資 産 運 用 支 出	102,001	102,000	1
借 入 金 等 収 入	0	0	0	そ の 他 の 支 出	124,392	59,392	65,000
前 受 金 収 入	402,222	418,503	△ 16,281	予 備 費	4,370		
そ の 他 の 収 入	114,903	168,430	△ 53,527		25,630		25,630
資金収入調整勘定	△ 555,984	△ 664,808	108,824	資金支出調整勘定	△ 56,171	△ 67,443	11,272
前年度繰越支払資金	2,143,751	2,143,751		翌年度繰越支払資金	2,060,177	2,296,270	
収 入 の 部 合 計	5,894,719	5,951,156	△ 56,437	支 出 の 部 合 計	5,894,719	5,951,156	△ 56,437

2021年度の寄付金受け入れ状況

2021年度の寄付金は、皆様から6420万8千円を頂きました。誠にありがとうございました。一般寄付(用途を限定しない寄付)、特別寄付(用途を限定した寄付)に分かれており、それぞれ寄付に込められた趣旨を十分踏まえつつ、大学と高校の教育活動支援に充てさせて頂きました。内訳についてご説明申し上げます。

◆学園に対する寄付について(823万円)

学校法人東邦学園に対し、特に用途を指定しないものとして学園全体の教育活動に使う一般寄付金として頂きました。大学・高校に応分に配付し、

学生・生徒への日常の教育活動経費に充当させて頂きました。

◆大学・高校に対する寄付について(1774万円)

- ・教育研究支援資金として、大学後援会や卒業生から寄付をいただき、大学の教育活動経費に充当させて頂きました。
- ・大学・高校の施設設備を充実させるため、同窓会などから支援の寄付を頂きました。

◆周年事業に対する寄付について

(3823万8千円)

現在、学園で作成している「100周年事業計画」に盛り込まれる具体的な内容の実現のために使用させて頂きます。

東邦学園100周年事業募金のお願い

東邦学園は2023年に創立100周年を迎えます。これからの100年に向けて更にはばたく意思を込めて、100周年事業計画を取りまとめ、実施に向けて準備を進めています。

各事業計画を進めるにあたり、学園としても資金を準備していますが、皆様方からもご寄付をお寄せ

いただきたくお願い申し上げます。

学生・生徒一人一人を見つめ、それぞれの可能性の芽を育むことを教育の柱に置き、混迷の時代を乗り越えていける人材を送り出す教育機関に対し、どうかお力添えをお願いいたします。

学園Webサイト「ご支援のお願い」:



English Activities on Campus

Pilar Gutierrez (PIA)

After two years of quarantine and remote lessons during the pandemic, students are back on campus. We thought the best way to welcome students back was having a scavenger hunt. The PIA team wanted to start the school year with a fun activity that had students exploring and rediscovering the different parts of the school while using English. The event was held in cooperation with International Exchange Center (IEC).

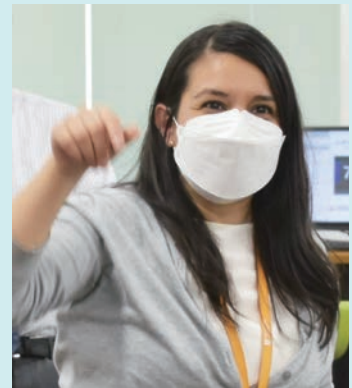
The scavenger hunt required students to collect different keywords around school campus. In this case, they needed to find the flags and collect names of countries that were posted around school. To find the flags, students had to solve riddles in English. Students had fun seeking the words in places like the library, gym, cafeteria, the PIA room, and other places. When students collected all six clues around the school, they came back to the IEC to get a prize, which consisted of snacks and school supplies. The students who participated in the event enjoyed walking around school and solving puzzles with their partner or individually.

I was happy that this event got exposure because hopefully more students will want to participate in our next events. We hope that these types of events will attract students who want to use their English outside of class or just have fun with their friends. The PIA will continue doing monthly events for students to participate and enjoy. The next event is on June 24th during lunchtime. Students are welcome to bring their lunch to the event. If you are busy to participate in our events, stop by the PIA room. Anyone is welcome there. The PIA room is an area where students can come to study, relax, or hang out. In addition, they can come with questions about their English homework, play games, and practice their English. We hope to see you at the PIA room or at our next event!

キャンパスで英語に触れる

ピラー・グティエレス (経営学部 国際ビジネス学科)

2年に及ぶパンデミック隔離と遠隔授業の後、学生たちがやっとキャンパスに戻ってきました。私たちは彼らを歓迎する最適な方法を考え、「学内スカベンジャーハント(たから探し)」を思いつきました。学生が英語を使いながら学内を探索し、再発見する



学生向けレクリエーションイベント「Scavenger Hunt」の開会を告げるピラー・グティエレスさん(5月27日)

という催しを提供することで、楽しく学年をスタートさせたい、と私たちPIAチームは考えたのです。このイベントは、国際交流センター(IEC)の協力を得て開催されました。

スカベンジャーハントは今回、「キャンパスを使ってキーワードを集める」というものにしました。学生は英語で書かれたクイズを解きます。その答えが学内の場所で、その場所を探すと国旗が掲げられています。その国旗の国の名前を答えます。

彼らはクイズの答えを頼りに、図書館、ジム、カフェテリア、PIAルームなど、学内に散らばって国旗を探していました。6つの手がかりを全て集めると、彼らはIECに戻って、スナックや文房具といった賞品を手に入れました。参加者は学校を歩き回り、二人一組あるいは個人で、パズルを解くことを楽しんでいました。

これをきっかけに、次のイベントに参加したい学生が増えたら嬉しいと思います。このようなイベントが、授業以外でも英語を使いたい学生に限らず、単に友達と楽しみたい学生であっても、惹きつけてくれることを願います。PIAは今後も、学生が参加して楽しめるイベントを毎月実施します。次回のイベントは6月24日のランチタイムです。昼食持参を歓迎します。もし忙しくてイベントに参加できない場合は、PIAルームにお立ち寄りください。どなたでも大歓迎です。

PIAルームは、学生が勉強したり、リラックスしたり、たむろしたりできるエリアです。さらに、英語の宿題に関する質問に來たりゲームをしたり、英語を練習したりできます。PIAルームや次回のイベントでお会いできるのを楽しみにしています!